

1 題材名 なるほど珍百形～不思議な見え方をさがそう～

2 題材の目標

- ・ 世の中にある不思議な見え方をする絵やものに気付く、その面白さを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- ・ 気付いたこと等を基に、表し方を試して発想したり、表現方法を組み合わせて、新たな方法を考
えたりすることができる。
(発想や構想の能力)
- ・ 見付けたことや気付いたことを絵の表現に組み入れるなど、新たな方法を考えながら表現するこ
とができる。
(創造的な技能)
- ・ 不思議な見え方をする絵や写真の形や色、向きなどの面白さに気付く、見る楽しさを味わってい
る。
(鑑賞の能力)

3 題材について

鑑賞する態度は、美術作品を前にしたときのみ発動されるわけではない。美しい風景に心を動かされたり、何気ない日常の事物事象に美や面白さを発見したりすることがある。日ごろ様々な物に心を開き、美しさや面白さを感じ取って楽しむ姿勢が、鑑賞や表現活動も豊かになるのだと思う。低学年から培ってきた、身の回りのものを見ることに対する興味・関心は、高学年においては、「なぜよいのか」、「なぜ面白く感じるか」といった「見え方」に対する好奇心を伴うことによっていっそう開花させることができる。


そこで本題材では「だまし絵」や「トリックアート」から錯視や見え方を鑑賞の対象にすることで、児童の好奇心を引き出し、さらに「他にも不思議に見えるものはないか」と追求する心が培われると考える。また、児童自身が考えた「だまし絵」や「～に見えるもの」の写真などを電子情報ボードを活用して鑑賞をすることで意外な形や色の面白さを発見できると考える。見る楽しさを味わうことのできる題材である。

4 準備・資料

児童が撮ってきた写真，教師提示用不思議な絵（図版），電子情報ボード，実物投影機，不思議発見カード，学習カード，展示ボード

5 本時の学習

◎は、児童の試行錯誤への関わり

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="185 1330 683 1424" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なるほど珍百形 ～不思議な見え方をさがそう～</p> </div> <p>2 教師が用意した「だまし絵」などの絵を見て、面白いところや不思議なところを話し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を提示し、本時の計画した内容に能率的かつ意欲的に取り組めるようにする。 ・ いろいろな「なるほど」に見えるものをたくさん見ていこうという意欲をもたせる。 ・ 最後には、なるほど珍百形のミニ美術館ができ上がるように頑張ろうと発展的に鑑賞の場をつくることも知らせる。 ・ 最初は、教師が用意した絵を電子情報ボードに映して見るようにする。 ・ 提示する「だまし絵」は、教科書や教師が用意したものを使い、単純なものからやや複雑なものへと変えていく。 ・ 本時は児童も電子情報ボードを使い発表することを知らせる。 <div data-bbox="863 1765 1417 2002" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>「タヌキの中にタヌキが入っている。」 「その中にまたタヌキがいるよ。面白いね。」 「形の中に形がかくれているんだね。もっといろいろあるかな。」 「上から見たり、下から見たり見方を変えてみたら。」</p> </div>

3 自分が見付けてきた不思議な見え方のものの写真を発表し話し合う。

- ① クイズ形式で問題を出す。
「何に見えるでしょう。」
「何がかくれているでしょう。」
「どこから見ているでしょう。」
- ② 意見交換をする。

①②を繰り返し行う。

③ 不思議発見カードに記入する。

- ④ 発表者は、自分の見方や面白いと思ったことなどを発表する。
「近付いてみると～がかいてある。」
「石なのに～に見える。」
「逆さに見ると別のものに見える。」



「ここに鳥がいるよ。」
「でも、カタツムリにも見えるな。」
「いろんなものに見えてきたぞ。」

4 本時の学習を振り返りまとめをする。
○学習カードに書く。

- ・自分のよくできたところ
- ・気付いたこと
- ・友人のよかったところ

5 次時の学習内容を確認する。

思い付いたこと、発想したことを自分の作品にしてみよう。

◎児童の発表前に発表するときのポイントや鑑賞の視点を明確にしておく。

- ・児童が写真に撮っておいたものを見せるようにする。

◎児童の発表を共感的に受け止める。

- ・児童全員がきちんと映像を見ることができるか、位置や向きなどに配慮する。
- ・発表は、分かりやすくするため、一人ずつ電子情報ボードの画面を見て発表する。
- ・クイズ形式なので、見方のポイントに気を付けて、楽しみながら答えさせたい。
- ・発表者は友人にきちんと見せ、見付けた場所や発想の基となったことや感想も話すよう指導する。
- ・発表者は、一人ずつ電子情報ボードの画面を見て「～に見えるのはここです。」と箇所等を書き込みできるようにする。
- ・不思議発見カードには、答えは勿論だが、話を聞いて分かったことや面白かったことなど自分の考えや思ったことを書くようにする。

◎発表した写真を展示ボードに貼っておき視覚の手助けとする。書きながらも、互い気付かなかったことなどのつぶやきを取り上げながら指導する。

㊦ みんなの「なるほど珍百形」を見ることで、自分にはない友人の感じ方に気付き、見る楽しさを味わっている。

〈鑑賞の能力〉(不思議発見カード, 対話)

◎感じ取ることが難しい児童には、近くに寄り添って言葉かけをする。

- ・不思議発見カードに書くことによって、感じたことや自分の考えを整理することができるようにする。

㊦ 不思議な見え方をするものに気付き、なぜ不思議に見えるのかを話し合い、面白さを楽しもうとしている。

〈造形への関心・意欲・態度〉(観察, 対話, 発見カード)

- ・発表や書いていることだけでなく児童のつぶやきを聞き「～な見方をしたんだね。」などの言葉かけをして支援する。

- ・学習カードで次時の内容を確認させ、自分の作品づくりへの意欲につなげたい。